

国際日本文学研究集会会議録(第2回)

PROCEEDINGS OF THE 2nd INTERNATIONAL CONFERENCE  
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN  
(1978)

国文学研究資料館

情報資料室

**PROCEEDINGS OF THE 2nd INTERNATIONAL CONFERENCE  
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN  
1978**

**National Institute of Japanese Literature**

1-16-10, Yutaka-cho, Shinagawa-ku,  
Tokyo, Japan 142

## 目 次

あいさつ	市 古 貞 次	3
スナップ		5
研究発表		9
上代日本文学の時間論的研究・序説	桑 川 光 樹	9
古代信仰から見た万葉集の羈旅歌	ヘルベルト・プルチョウ	23
日本文学と風土	長 谷 章 久	33
新古今時代における玉葉・風雅歌風の前兆	フィリップ・ハリス	44
—建礼門院右京大夫を中心として—		
竹園抄とその前後	リューベン・ゲーリング	52
近松浄瑠璃と音楽の節付	アンドリュウ・ガーストル	61
高村光太郎におけるアメリカ	瀉 沼 誠 二	72
シンポジウム		89
19世紀における日本文学 —近世から近代へ—		
	司会 長谷川 泉	
	講師 前 田 愛	
	ク ドナルド・キーン	
	ク アンドレ・デルティユ	
記 録 編		132
研究集会日程		132
研究集会の経過		134
参加者名簿		138



## あ い さ つ

第2回国際日本文学研究集会の開会にあたって、一言御挨拶申し上げます。

日本文学に関する研究集会や学会は、国内においては、日本文学協会、全国大学国語国文学会などをはじめとして、各時代別の学会、あるいは和歌・俳諧というようなジャンル別の学会など24の主な学会がありますが、しかし、広い視野からの国際的な研究集会は、これまでほとんどありませんでした。

そこで私どもは、海外の方からの御希望もあって、昨年第1回国際日本文学研究集会を開いたわけですが、はじめての企画で不十分な点があったにもかかわらず、大体において参加された方々から御好評を得、よろこんでいただけたと伺っております。これは、私どもにとって、大へんありがたいことでありまして、ここに本館主催で第2回国際日本文学研究集会を開催することができましたのも、そのような多くの方々の御支援によるところが大きいものと存じ、厚く御礼申し上げる次第です。

国文学研究資料館は、1972年の5月に設けられた、大学の共同利用機関で、その主な事業を申し上げますと、現在残っている明治以前の日本文学に関する文献資料を、国内・国外にわたって広く調査し、そのテキストをマイクロフィルムに収め、広く研究者に公開し、利用していただくことがその一つです。もう一つは、日本文学に関する研究情報や研究文献を集め、整理して研究者に提供し、利用していただくことです。今日、日本文学の研究は、きわめて活発で、したがって発表される研究論文は大へんな数にのぼっております。最近20年間における、日本文学に関する論文は10万点に達していますし、単行本も毎年500点位出版されており、20年間で1万点を数えます。そのような多数の研究情報のうち、どのようなものがどこにあるかをどうやって知るか、またそういう文献を入手するためには、どうしたらよいか、などということは、大へんな問題であります。こういう面は何も日本文学研究の分野に限られません。あらゆる学問研究においてさしせまった問題としてとりあげら

れているところです。日本文学でも考えなければならない時期に来ており、私どもはコンピュータを利用して、能率的に情報検索を行うことを進めております。将来は皆さんにもぜひ活用していただきたいと思っております。

要するに、国文学研究資料館は、文献資料の調査・研究と、研究情報の収集・整理などを中心とした日本文学の研究センターであり、またそれらの資料を利用して、共同研究を行い、日本文学の研究を進展させようとするものであります。国内の研究者ばかりでなく、海外の研究者にも利用していただいて、文化交流の面にも寄与してゆきたいと考えております。

海外から来られた方々は、研究上いろいろ不自由なこともあるかと思いますが、そんな点についても、国文学研究資料館は御相談に応じ、できるだけ御便宜をはかりたいと存じておりますので、どうか御利用願いたいと存じます。

本日のこの国際日本文学研究集会は、以上のような本館の設立の趣旨、目的に沿って、内外の日本文学研究者による研究発表と討論により、研究者の国際交流を深め、広い視野からの日本文学研究の進展をはかる目的をもって開いたものであります。本年参加を申し込まれた方々は、約120名で多数の国々からお見えになっております。このように昨年にもまして多数の方々の御参加を得ましたことを厚く御礼申し上げます。

なお、昨年も申し上げましたが、私どもは毎年1回、このような研究集会を開催したいと思っておりますので、会の運営、あるいは本館の利用につきましても、随時御意見をお寄せ下されば幸に存じます。

1978年11月16日

国文学研究資料館長  
市古貞次